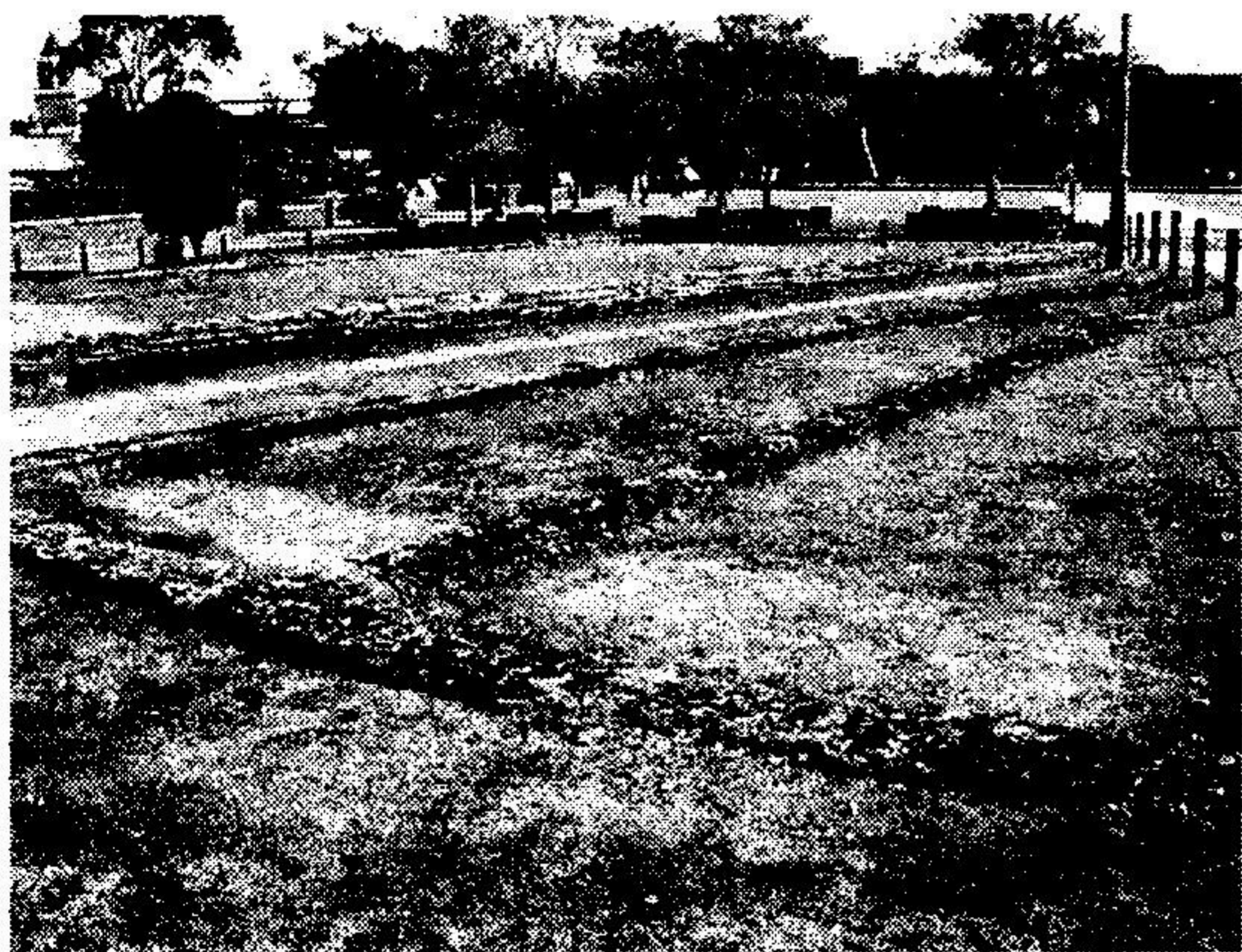


長崎原爆遺構を歩く

県原水協常任理事 内田 武志

平和祈念像が建ち、平 厚さ二十五センチもある鉄筋和の泉や多くのモニユメントもある平和公園には、多くの人が訪れます。この場所は、長崎刑務所浦上支所があった場所です。爆心地にもっとも近い公共の建物でした。刑務所の木造庁舎は全壊全焼しました。周囲にめぐらされた高さ四尺、



刑務所跡 (平和公園内)

平和公園の地に遺構

⑨

二人、朝鮮人十三人の計百三十四人全員が即死した」とあります。ここで爆死した中国人は大陸から連行され、炭坑で強制労働に従事させられていた人たちです。今年、公園内に、この中国人被爆者三十二人の名前が刻まれた、「慰霊碑」が市民有志によって建立されています。

公園地下駐車場工事の折、地中から赤レンガの刑務支所の基盤や処刑場跡の地下部分がでてきました。長崎には原爆遺構が少なく貴重な存在なので保存を求める声も上がりましたが解体撤去されてしまいました。かろうじて基盤部分が公園内に復元展示されています。

長崎原爆による中国人被爆者はおよそ六百五十人、朝鮮人被爆者については諸説がありますが、長崎市の調査では一万二千—一万三千人とされています。